

本単元でよく見られる生徒のつまずき

次の計算をなさい。
 $4 - 7 + 9 - 5$

【誤答例①】

$$\begin{aligned} &4 - 7 + 9 - 5 \\ &= 4 - 9 + 7 - 5 \\ &= -5 + 7 - 5 \end{aligned}$$

【誤答例②】

$$\begin{aligned} &4 - 7 + 9 - 5 \\ &= 4 - (7 + 9) - 5 \\ &= 4 - 16 - 5 \end{aligned}$$

式を項の和としてみることや、交換法則や結合法則を正しく利用することができない。



授業での指導の工夫

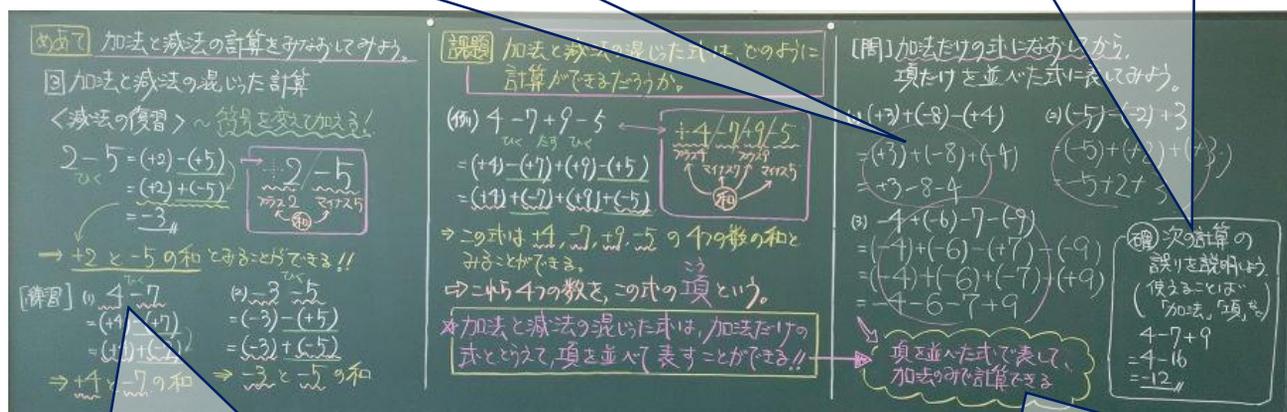
【本時の目標】 正の数・負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみて計算することができる。

【対話を位置付けた指導】

- 生徒が黒板に書いた式から、どのように考えたのかを解釈したり、自分が納得したことを相手に分かりやすく説明したりするなど、筋道立てて説明し伝え合う場面を位置付けます。

【学習評価による授業改善】

- 確認問題を解決できない生徒がいる場合は、つまずいている状況を把握し、直ちに指導するとともに、指導の改善点を洗い出します。



【数学的な見方を支える言葉の指導】

- 式を項の和としてみることができるよう、「たす」と「プラス」、「ひく」と「マイナス」が示す意味の違いを理解し、言葉を明確に使い分けることができるようにします。

【主体的な学習を促す終末の工夫】

- 終末では、問題解決の過程を振り返り、減法と負の数の加法を関連付けて考えることで加法と減法を同じものとして捉えられるようにするなど、統合的・発展的に考察する場面を設定します。

授業づくりで大切にしたいこと

- 生徒が働かせる数学的な見方・考え方を明らかにする教材研究
- 問題解決の過程を振り返る場面の設定
- 文字を用いた式の計算や方程式を解く際にも、本時の式の見方を確認していくなど、意図的な学び直しの機会の設定